

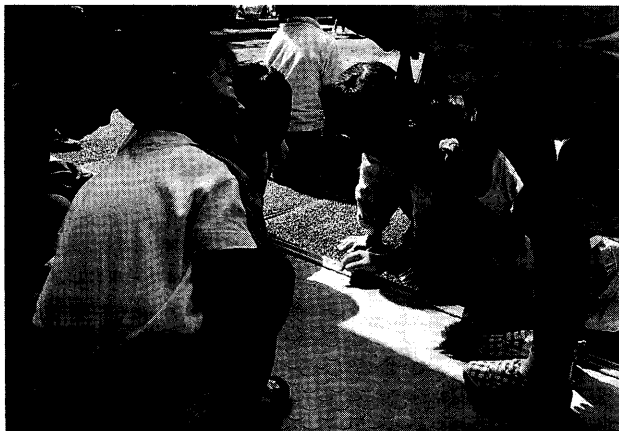
幼稚園の日々

片隅の自然の魅惑

都会の小さな幼稚園にもささやかな自然はある。5月ともなれば、花が開き、花卉が散る。鮮やかな色が砂や土に点在する。だんご虫やアリの姿にも目が止まる。小さいながらも動いている面白さなのか、突っつくと姿を変える不思議さからなのか、子どもはだんご虫を集める。ゲームのキャラクターを集めるのと同じ意味で、集めることで我がものにするのでもあろう。だがそれ以上に、生きた花や虫は、自分の普段暮らしているところに現れて、大きな自然の秘密を少しだけ話ってくれる鍵のように感じられる。子どもが虫を集めたり、花びらを手にしている様子には、その鍵を手にして、自然への驚きを分けもっているところが見えるようである。



▶だんご虫取りが流行る。プラスチックの容器に入れて持ち歩く。時々出している様子を見て楽しむ。



▶ホール前のテラスでもだんご虫のおひろめ会。5月の暖かさを、だんご虫も小さいのから大きいのもまで、たくさん見つける。



◀花びら集め。園庭のブランコの後ろ側はたくさん黄色の花びらが落ちて
いる。



▶ピンクの花びらも魅力的。話しながらも、手は止まらない。



◀ブランコに乗りながらも、ふと見つけた黄色の花びらにひかれる。

写真・樋口早百合
解説・無藤 隆
協力・目白幼稚園